

連載
第9回

教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながる子供たちも少なくありません!
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校のようすを毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

ジャカルタ日本人学校

- 布施 泰志(ふせ・たいし) 小学部4年担任
- 穴井 亮(あない・りょう) 小学部3年担任
- 宗倉 汐理(そうくら・しおり) 小学部3年担任
- 成瀬 あずみ(なるせ・あずみ) 中学部・英語
- 川原 幸(かわはら・さち) 中学部・国語



1 赴任したきっかけ(成瀬 あずみ)

以前、独立行政法人の派遣事業を通し、現地の国立高校の日本語教員アシスタントとして1年間インドネシアの地方に滞在していたことがありました。その際に、「大丈夫、なんとかなるさ」という明るく前向きな価値観や興味深い文化など、都市に暮らしては知ることのできないインドネシアの素晴らしい一面に触れることができました。人とのつながりや許し合う心を大切にしている現地の人たちと交流するなかで、見て触れて知ったことを都市部に住む日本の子どもたちにも伝えたい、現地への理解を深めその意義を感じてほしい、また、伝えることで温かく迎えてくれているインドネシアの人々に何か恩返しができるのではないかと考え、ジャカルタ日本人学校への応募を決めました。



一緒に動いているインドネシアの先生方と

2 学校の概要(宗倉 汐理)

ジャカルタ日本人学校は、日本から南に約5,000kmの赤道直下の国、インドネシア共和国の首都ジャカルタの郊外にあります。1969年5月に日本国大使館付属ジャカルタ日本人学校として開校し、今年の5月で創立50周年を迎える学校です。2018年4月16日現在の児童生徒数は、小学部が821名(29クラス)、中学部が239名(9クラス)、合計1,060名(38クラス)です。また、ジャカルタ日本人学校の教職員の総数は、121名であり、世界でも有数の大規模校です。年間を通して水泳の授業や、インドネシア語の授業など、インドネシアならではの学習もあります。体育祭、JJSフェスティバルなど小中学生が交流しながら大変盛り上がる行事があります。大規模校なだけに、転出入が多いですが、何事にも一生懸命で優しい子供たちに溢れている、温かい雰囲気のある学校です。



ジャカルタ日本人学校の全景

- ### 海外で働く 学校採用教員Q&A
- Q19 教科書はどの出版社のものを使用していますか?
A19 日本の出版社の教科書が用いられています。詳しい出版社はJOESホームページでご覧いただけます。JOESでは文部科学省より要請を受け、出国者の方へ海外で使用できる教科書をお渡ししています。
 - Q20 教材教具はどのようなものを使用していますか?
A20 日本でしか手に入らない物は日本から取り寄せて使用しています(ワークやドリル、家庭科や工図の各種工作キット、跳び箱やマット、黒板等)。JOESでも日本国内の教材を購入するお手伝いをしています。また、体育用品や文具等は現地で購入したり、同じ物がない場合に現地の物で代用することもあります。

3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?(穴井 亮)

「年中暑い!」というインドネシアの特性を踏まえて、本校では1年を通して水泳の授業を実施しています。子どもたちが目標をもって運動に取り組めるように水泳検定級を設定しており、1つでも級をあげられるように日々頑張る姿が見られます。学習発表会では、毎年6年生がインドネシアの歴史を伝える劇を披露しており、サマダンダンスやアングルンの演奏といったインドネシアの伝統芸能に触れながら、平和の尊さや大切さを伝えています。他には、保護者の方々によるヘリテイジレクチャーが行われており、インドネシアの食文化や生活、歴史などについて、体験活動を通して学んでいます。子どもたちだけでなく、私たち教員も学ぶことが多く、大変充実した時間となっています。



アングルン演奏の様子

4 学校で勤務した感想(川原 幸)

ここに来て感じたことは、子どもたちは素直で非常に学習意欲が高いということです。常に向上心を持ち、疑問があると納得いくまで追求します。しかし、進級とともに高度になっていく学習内容と日本語についていけない児童生徒もいます。彼らの「わからない」を見つけ出し、ともに見つめ直し、そして「わかる」ようにするための支援を考えることが壁としてありました。また、小中一貫校であるため教員が小学部と中学部の両方の指導にあたります。私は中学部の国語科ですが、小学部の書写と日本語教室の授業も行っています。その際に児童への話し方や接し方を学ぶことにより、小中のギャップを理解して中学部生徒への指導に生かすことができました。



中学部国語の授業

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?(布施 泰志)

ジャカルタでは、児童生徒は様々な経験をします。日本では見ることができないような動物や植物に出会ったり、現地の人たちと外国語で話しながら交流したりする機会もあります。また、日本とは違い、1年を通して夏のような暑さが続き、日々見る景色も大きく違います。しかし、ジャカルタに住んでいる人にとって、それが今は当たり前となってしまっています。なかなか日本ではできない経験を発信する機会は多くありません。日本に帰った児童生徒には、ぜひこの違いを多くの人たちに伝えて国と国との架け橋になって欲しいです。日本の先生方には、そうした機会を児童生徒に多く与えて下さればと思います。また、海外生活が長い児童生徒は日本の文化を実際に体験したことがないということもあります。そうした、日本の文化を体験する場を多く用意して頂けたらなと思います。



体力向上のためグラウンドを走る子どもたち

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団(Japan Overseas Educational Services=JOES)は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>

